

重要伝統的建造物群保存地区におけるまちづくり

(株) フジタ建設コンサルタント 正会員 ○谷 誠
(株) フジタ建設コンサルタント 非会員 田尻 久生

1. はじめに

美馬市は、平成 17 年に旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできた市である。脇町は、江戸期から明治期にかけて阿波藍の集散地として、明治期から昭和期にかけては四国随一の繭の集散地として栄え、藍商や呉服商などの富豪が軒を連ねた在郷の商家町として発達した。

その中心となる「南町通り（うだつの町並み）」の建物は、主屋の大半が江戸時代以来の伝統的形式で、本瓦葺の屋根の分厚い漆喰壁には、虫籠窓や「うだつ」など貴重な建築意匠が残されている。「うだつ」とは町屋の妻壁の横に張り出した袖壁で、本来は防火の役目を果たしたが、一方で家格の象徴ともなり、「うだつが上がるぬ」の語源となっている。

2. 地域と連携した町並み保存

脇町のまちづくりの具体的な動きは、昭和 59 年の「脇町の文化をすすめる会」の発足からである。その後、文化シンポジウムや研修会の開催、機関紙の発行など、地域文化活動推進母体としての機運が高められた。そして昭和 61 年に、住民組織「南町町並み保存会」が結成された。ここでの先見的な取り組みとして、農業倉庫を活用した町立図書館、脇町高校資料館、脇町中学校などの公共施設や民間の店舗などの建設に本瓦葺に「白壁」、「うだつ」等の意匠を採用した町並み景観のイメージづくりが挙げられる。こういった行政と地域住民、各団体等との連携のもと、昭和 63 年 3 月に「市街地景観条例」が制定、同年 12 月には「南町地区」が国の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受け、その後、保存事業が継続して進められている。（指定 88 棟のうち現在約 50 棟完了）

以下に、この「重要伝統的建造物群保存地区」における住民参加型まちづくりを紹介する。

3. 町並み保存と南町通り整備

「南町通り」は、延長 430m、幅員約 5m と狭く、当時は両側に電柱が立ち並び、くもの巣のように架空の電線類が張り巡らされていた。通りの建物の保存・修復が進むにつれ、沿道建築物と調和した道路空間の景

観整備が求められるようになり、平成 5 年には「南町通り」の道路景観整備計画が始まった。

平成 7 年に、「南町通り」が旧撫養街道として、旧建設省の「くらしのみちづくり事業」、「歴史国道整備事業」の選定を受け整備計画が継続されてきた。整備計画は、脇町市街地景観審議会（行政、学識経験者、住民団体で構成）や、地域住民を対象としたワークショップで得られた意見、住民からの聞き取り調査等で得られた意見等を基本として進められた。ここでは、町並みの保存・復元と、地域住民の生活環境の維持・改善との調和が課題となった。主な景観要素と検討課題、整備内容を表-1 に、整備前後の状況を写真-1 に示す。

表-1 主な景観要素・検討課題と整備内容

道路景観要素	検討課題	整備内容
電柱	景観との調和 有効幅員確保	電柱撤去・電線地中化に伴うインフラの共同溝化 受電設備修景
舗装	町並みに調和した素材・色	排水性自然石脱色 A s 舗装
側溝	構造・形状 開水路←→隠す	舗装表層下に埋設
照明灯	町並みに調和 形状・配置位置	自然石（撫養石）台座のフットライト 目立たないデザイン の街路灯 民家敷地内に設置



写真-1 整備状況

整備後は、通り沿いの空家であった町屋を利用して、民芸店や茶屋などが出店するようになった。平成8年7月には、うだつの町並みを訪れる人たちを「もてなしの心」でお迎えしようと「脇町うだつの町並みウェルカム観光ガイド」が15人で発足され、その温かい心も無形の土産品となっている。町並みを訪れる観光者も整備前の年間4万人から一時は年間20万人が見込まれるまでになった。その後、平成14年に道の駅「藍ランドうだつ」が整備さ

れ、「南町通り」へのアクセス拠点の充実が図られた。

4. 最近のまちづくり

(1)都市再生整備計画

近年、美馬市では上記の「南町通り」だけでなく、対象区域を脇町中心地区に拡大し、表-2及び表-3に示す内容「都市再生整備計画」を策定し、事業を行った。

表-2 事業概要

計画対象区域	美馬市脇町中心地区
面積	225 ha
計画期間	平成17年～21年の5ケ年
大目標	観光・リゾートタウンとして、地域の歴史・文化・自然環境を活かした個性あふれるまちづくり
目標	・「うだつの町並み」を核とする美馬市の観光スポットの拡大 ・歴史的風致と景観の保存 ・住民参加による観光・文化活動の推進

表-3 整備内容

	事業	細項目	事業箇所名
	道路		市道脇町4号線 市道脇町205号線
基幹事業	地域生活基盤施設	サインの一里塚 藍蔵・傘のサイン サイン設置 サイン設置	稲田橋西詰 船着場公園 南町 吉田邸西側
	高質空間形成施設		南町・中町並み路面舗装高規格化 秋葉公園公衆トイレ 北橋西詰休憩所 松下邸裏小広場 南町休憩所(吉田邸横) デ・レーク堰堤休憩所 遊歩道整備(天神池周辺)
		モニュメント・照明施設等 電線類地下埋設施設	南町井戸周辺 市道脇町439号線
提案事業	事業		事業箇所名
	地域創造支援事業	細項目	
		レンタサイクル整備事業	郷土資料館
		観光情報・展示リニューアル	吉田邸・藍蔵
		南町復元模型展示	吉田邸2F
		脇町劇場(オデオン座)改修	脇町劇場
	事業活用調査	まちづくり活動調査事業	
	まちづくり活動	まちづくりワークショップ運営	
	推進事業	南町のれん景観実験	南町

表-3の各整備事業において、住民説明会やワークショップ等を開催し、計画段階から住民参加型の計画づくりを行ってきた。

(2)事後評価

都市再生整備計画の事後評価は、住民の効用増大や満足度、事業を実施したことによる住民や社会への影響度(アウトカム)を表-4に示す指標によって目標を定量化し、この数値目標を基準として達成状況を検証する方法を採用している。

表-4 目標達成状況を定量化する指標

指標	単位	従前値→評価値
観光客数	人/月	16,000(H16)→20,000(H21推計)
観光バス数	台/月	65(H16)→94(H21推計)
ボランティア活動者数	人/年	250(H17)→641(H21推計)

情報公開により、住民に対する説明責任を果たすとともに、今後のまちづくりの方向性を行政、住民等の協働で検討し、実効性・透明性を高めるために、計画内容、事前設定目標、実施課程の状況、事後の評価や反省点等をまとめた「事後評価シート」を市の広報・

HPに公開した。特に写真-2に示すように、ワークショップを通して、住民の「声」を計画に反映し、地域の特性を活かした整備を行ったことは、住民や観光客の利用促進、満足度の向上に繋がるとともに、地域住民やボランティア団体等との持続的なまちづくりの協働体制が構築されたことは、今後のまちづくりにも効果が期待できる。



写真-2 ワークショップ開催状況

5. まちづくりの効果-住民参加による観光・文化活動の推進-

うだつの町並みを中心にした整備が進むとともに、映画やTV、CM等のロケ地として使われるようになった。これが発端となり平成18年から開催された「うだつ黄門まつり」は、本年には第4回を迎え美馬市の大きなイベントとなった。このイベントには多くの住民が自主的に参加し、観光イベントを盛り上げている。

「脇町うだつの町並みウェルカム観光ガイド」も現在までに23人となり活動が継続されている。またデ・レーク堰堤休憩所周辺では、整備された花壇に地域の学校や住民のボランティアの参加により、チューリップなどの花が植えられなど、多くの観光客を集めるようになった。また、一年を通して、ボランティアによる維持管理体制が生まれた。

地元企業や第3セクター「ふるさとわきまち(株)」、「美馬市観光協会」が平成19年度から開催し好評であった有名華道家の華道展「うだつをいける」が、平成21年から吉田邸やオデオン座を会場としても行われ、企業からの花材や花器等の提供だけでなく、市民の協力で花材の提供や収集を呼びかけるなど、地域、企業、市が一体となり多くの来場者を集めている。平成19年度の初回は約4000人であった来場者が今回は1万人を超え、大きな観光効果を上げている。

6. 今後のまちづくり

「にし阿波観光圏」(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)と連携を図りながら、事業区域を拡大し、更なる観光客の増加と滞在時間の増加、歴史的資産の保存を主な目標に、現在「都市再生整備計画(第2期)」(平成22年度から4カ年計画)を策定中である。